亀田ニュース

2022
No.995
10月1日号

●〒296-8602 千葉県鴨川市東町929 ●TEL04(7092)2211㈹ ●発行責任者 亀田隆明 ●作成 広報企画室 ●毎月1日・15日発行

10月はピンクリボン月間 「乳がん検診」で早期発見を

乳がんは、女性が罹(かか)るがんの中で最も多く、日本人女性の9人に1人が発症するといわれています。(まれに男性でも発症します)

40代以降の女性に多くみられるため、自治体の検診では、40歳から2年に1度、マンモグラフィー検診(X線撮影による画像検査。以下マンモ)が推奨されています。ただし、日本人女性に多い高濃度乳房(乳腺密度が高い人)は、マンモではがんが見つかりにくいとされています。過去の検診で高濃度乳房といわれた方は、マンモと超音波(エコー)検査の併用、または毎年交互に受けることもおすすめです。

40代以降に多いからといって、20・30代の人がならないというわけではありません。特に遺伝性乳がんの場合は、若い時期に発症することが多い傾向にあり、乳がんや卵巣がんになられた方がご家族や血縁者に多い場合は、40歳未満でも意識的に人間ドックなどで検診を受けるようにしましょう。

乳がんは早期に発見・治療すれば完治率の高いがんです。しかし、残念なことに日本の検診受診率は47.4%(国立がん研究センター 2019年)と欧米に比べてまだまだ低い現状です。早期にがんを発見できれば、治療の選択肢も広がり、患者さまの身体的・経済的・社会的負担を軽減することができます。定期検診やセルフチェックを活用するとともに、少しでも気になることがあれば、乳腺科医師にご相談ください。

【お役立ち情報】

当院放射線科部長の町田洋一医師が、乳がん検診・乳腺診断にかかわる用語をホームページ上でわかりやすく解説しています。下記からご覧ください。
(http://www.kameda.com/patient/topic/diagnosis/index.html)

季節性インフルエンザワクチン接種予約受付中

亀田クリニックでは、10月17日(月)から、3階特設会場にてインフルエンザワクチンの集団接種を実施いたします。接種は**完全予約制**です。10月1日(土)から受付を開始していますので、希望される方は、お早めにご予約ください。

接種期間: 10月17日(月)～12月24日(土)
(接種は14:00～16:00の時間帯で実施)
対　　象: 生後6ヶ月以上のすべての方
接種回数: 生後6ヶ月～12歳は2回、13歳以上は1回
費　　用: 4,000円(税込) ／1回
※お住まいの自治体により助成制度あり
予約方法: 04-7099-1111
8:00～17:00(日曜・祝日除く)
※亀田クリニックのホームページからWeb予約も可能です

ご注意ください

11月からは金曜日のみ新型コロナワクチン接種を予定しています。詳細は後日ご案内します。ご予約の際はワクチンの種類や日時等をご確認のうえ、お間違いのないようにお気を付けください。

採血・採尿室の受付方法が変わります

待ち時間の緩和をめざし、10月11日(火)から亀田クリニック3階「採血・採尿室」の受付が機械方式に変わります。

自動再来受付機(1・2階)で受診の受付を済ませた方は、下記操作を行ってください。

1 受付票のバーコードを①にかざし、読み取らせる
2 採血の方は②「整理券」、採尿の方には③「採尿カップ」が発行されるので、受け取ってください

採血の待ち時間が待合室設置のモニターで把握できるようになるほか、採血の呼出もモニターでの整理番号表示に変わります。

bayfm「MEDICAL UPDATES」

FMラジオ局ベイエフエム『it!!(イット)』では、毎週火曜日の午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UPDATES」のコーナーが好評放送中です。10月は脳血管内治療科部長の門岡慶介医師が、「脳の血管にまつわる疾患」をテーマにお話しいたします。

第10話 漢方の２つの顔

前回に引き続き、実際の漢方診療のご紹介です。

「望・聞・問・切」という「四診」のうち、最後の「切診」は患者さまに直接触れて診察する“触診”です。漢方ではどのような訴えで受診されたとしても基本的に全例で最初に脈・舌・腹を診察させていただきますが、この脈と腹を診るのが切診です。「花粉症の治療に来たのに、なぜお腹を触るの？」とこれまた訝（いぶか）しがられたりしますが、これも治療にあたって全身の状態を把握するために欠かせない診察なのです。

日本漢方では、特にこのお腹の診察「腹診」が重要です。現代医学の診察とは違い、脚を伸ばした状態で診察するのが特徴です。現代医学のお腹の診察は、お腹の中の炎症や腫瘤がないか等を診ますが、漢方の腹診では腹部を押した際の反発力や、腹部のいくつかの点を圧して妙な痛みが出るか、筋肉の緊張や弛緩、皮膚の温度、乾燥の程度、汗の有無などなど…様々なものを診ています。

脈の診察も現代医学のように脈の速さやリズムのみならず、強さや触れる深さ、脈の流れなども重視します。中国などではお腹の診察をしない一方で、脈を非常に細かく分類して詳しく診ますが、漢方では風邪などの急性の病気以外では、そこまで脈を重視しません。それでも脈から得られる情報というのはなかなかのものです。私は以前いた病院で鍼灸部門と一緒に逆子の治療をしていたため、何百人という妊婦さんの脈をとらせてもらったのですが、そのうち妊娠しているかどうか、さらには胎児の性別は男女どちらかを、脈を診ることで結構当てられるようになりました。おそらく交感神経などの変化で、動脈の壁の緊張などが影響を受けて変化するのでしょうが、人間というのは実に複雑精緻で不思議なものです。

さて、こうして四診を経て患者さまの状態を診断し、治療のために適切な薬を選ぶわけですが、実は漢方には「標治と本治」という「2つの顔」があることはあまり知られていません。今現在つらい症状や、困っていることをできるだけ素早く緩和する治療が「標治」。目先の症状よりも患者さまの状態を（漢方的な視点からみて）最善の状態にするのが「本治」で、これによりご本人の治るチカラを引き出していく戦略です。

もちろん両者は全く別個のものではなく、多くの場合多少なりとも重なり合って進行していくのですが、現在多くの医師が使っているのは、ほとんどの場合が困った症状に便利な薬という「標治」的な使い方です。これはこれで非常に便利で、だからこそ医療の現場でも広く使われていますし、市中の薬局でも実にたくさんの漢方薬が市販されています。そういう薬の多くはキャッチーなカタカナなどの名前をつけられて売られていて、購入される方の中にはそれが漢方薬だと知らないで飲まれている方もたくさんおられると思います。名前を変えてまで売られるのは、イメージは良くないのかもしれませんが、それだけ漢方薬がよく効くからでしょう。

一方、当科のような漢方の専門科では本治を中心に治療を行うことが多いです。標治が、洪水が起こったとき家の周りに土嚢を積んだりポンプで水をかき出すような治療だとすれば、洪水の原因となっている破綻した堤防を修繕したり、そもそもの川の流れを治水工事でなおすような、時として遠回りな、しかし本質的な治療が本治、といえば分かりやすいでしょうか。

（土嚢）標治

（修繕）本治

医療エッセイのバックナンバーは下記よりご覧いただけます
http://www.kameda.com/ja/general/about/magazine/index.html

医師紹介

長田（ながた） 千愛（ちえ） 医師

①担当科目
②診療における得意分野
③趣　味
④ひと言

①集中治療科
②麻酔
③ガーデニング、写真
④より良い医療を提供できるよう、がんばります。

Kameda Medical Center

亀田ホームページ http://www.kameda.com